

「戦後創作組踊集（仮）」記録事業
報告書

2021年7月20日
アジア・太平洋文化交流ネットワーク in 沖縄

団 体 概 要

国立劇場おきなわは設立当初から「アジア・太平洋地域との文化交流」に重きを置いており、“日本とアジア太平洋をつなぐ文化のハブ機能”を担う事が望まれていた。その目的で劇場内に作られたのが3階の「交流プラザ」である。

しかし現状は主に貸し会議室として使用されている状態で、目的通りの機能を果たしていなかったことから、「沖縄から積極的に文化交流を発信し日本とアジアを繋ぎ、劇場の事業にもさらなる深みを持たせる補完機能として、交流プラザを中心にアジア・太平洋文化交流ネットワークの基盤を整備する」目的で、当団体を2018年設立した。

1. 名称 アジア・太平洋文化交流ネットワーク in 沖縄 (略称 APCN 沖縄)

Asia Pacific Culture Network in Okinawa

2. 活 動 国立劇場おきなわ交流プラザの活用

アジア・太平洋地域の音楽・芸能の文化交流および調査研究・保存
国立劇場おきなわの事業への協力・支援

3. 組 織

①運営委員 (2020年度現在)

会 長	宜保栄治郎	元国立劇場おきなわ常務理事
副会長	田中英機	くらしき作陽大学客員教授
	比嘉悦子	民族音楽研究家
運営委員	田名真之	沖縄県立博物館・美術館館長
	眞境名正憲	組踊立方・伝統組踊保存会会長
	大城 康彦	循環器医師・空手家・琉球芸能実演家
	又吉静枝	琉球舞踊家・県立芸大名誉教授

② 監事 山内瑛美香 津軽三味線奏者・御座楽復元演奏研究会

③会員

沖縄県内外の研究者・評論家、実演家・舞台制作者、実業家、学生などを含む広く一般の個人および団体

④事務局 事務局長 大野順美 一般社団法人ステージサポート沖縄代表理事

4. 基本的な活動

原則として毎週木曜日 11時～17時、交流プラザにて活動。

サロン・研究会・ワークショップ・シンポジウム・研修・公演など、その他事業内容や芸能ジャンルにとらわれず幅広く活動する

「戦後創作組踊集（仮）」記録事業

1) 概要

現在、国立劇場おきなわでは創作組踊も多数上演されているが、創作組踊の戯曲集は大城立裕氏の著作のみである。大城氏以前にも書かれた創作組踊作品も数多く存在しているが、上演回数が少なかったり現在全く上演されていない作品もあり、現在は手書きの台本のまま各道場で保存されるのみである。

本事業では、それらの貴重な作品を時代に埋もれさせず次世代へ残していくことを目的に、戦後創作された創作組踊作品を集めて記録し、出版を行う。（おきぎんふるさと振興基金助成）

2019年は組踊が初演からちょうど300年であり、1719年に誕生した組踊が“創作組踊という新しい流れを生み出し、現代に愛されていることを300年の節目に広く知ってもらいたいという思いから、開始したものである。

2) 見込める効果

- ・関係者が全員亡くなってしまった場合、台本や上演権があいまいになってしまい上演されなくなる可能性があるため、本事業において上演権の許諾先を明らかにして作品とともに記録しておくことで、次世代でも上演できるようにする。
- ・今後「組踊の新作を執筆したい」という次世代のために、先人達の作品も勉強の題材として活用できるようになる。

3) 当初事業スケジュール

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
「戦後創作組踊」記録事業	事業部会残足	←→											
	内容検討		←→										
	作品所在探し・収集 掲載許可申請				←→								
	編集作業					←→							
	印刷											←→	
	完成												○
	会計処理・報告準備												
その他 APCN沖縄の事業	←→ 前年度 会計 処理	○ 総会	←→ 事業 広報	←→	「クロストーク」 事業			○ アジア 芸能 交流会				「クロストーク」 事業	

4) 編集部会 委員

編集部会 代表 眞境名正憲

学識経験者 宜保栄治郎

田中英機

編集 大野順美

アドバイザー 比嘉悦子

5) 掲載対象作品候補

戦後～国立劇場おきなわ開場前（1945—2003）までに書かれた作品を中心とする。

ただし、出版物等に未掲載の作品のみ掲載とする。

上間朝久 ・犬太郎と王女（1961）→再演名：王女と犬太郎

・中城落城（1961）

・百登踏揚・勝連くだりの巻（1962）

玉城盛義 ・普天間権現（1962）

川平朝申 ・伊江島の遺念（1963）

仲井眞元楷 ・綾蝶感応の巻

6) 活動履歴

2019年4月 事業企画立ち上げ

2019年5月 運営委員会にて事業を諮る、全員賛成で開始決定

2016年6月 総会にて会員へ事業周知

2019年7月 おきぎんふるさと振興基金助成認証式

2019年8月 各所へ作品の保管状況を問い合わせ開始

2019年10月 作品集の体裁打ち合わせなど

上演当時の出演者に聞き取り調査

2019年11月 掲載台本の基準と著作権・上演権の考え方を話し合う

2019年12月 第一回編集部会開催

当初予定になかった「母天女」「修羅の門」の2作品も追加で搜索決定

2020年1月 各作品の作者・著作権者調査

2020年4月 「中城落城」「百登踏揚」「普天間権現」「伊江島の遺念」「綾蝶感応の巻」

作品保管者より手書き台本を借り受ける

2020年4月 緊急事態宣言により、活動自粛

2020年6月 活動再開、手書き作品をデータ起こし

2か月の活動自粛により作業遅延した旨おきぎん事務局へ報告

- 2020年7月 上間朝久氏の遺族に面会、作品掲載許諾を頂き上演権を確認
- 2020年7月 5月に開催予定の運営委員会を開催、事業進捗を報告
- 2020年8月 緊急事態宣言により、活動自粛
- 2020年9月 活動再開、「修羅の門」台本見つかる
- 2020年10月 巻頭文の執筆、校正
- 2020年11月 「母天女」台本見つかる
- 2021年1月 緊急事態宣言により、活動自粛
- 2021年3月 活動再開、現在の進捗確認
- 2021年5月 運営委員会にて作業遅延の報告
「落胤」「月の夜の姫の物語」がまだ見つからない旨報告
参考作品として眞境名由康「人盗人」追加掲載を決定
- 2021年5月 緊急事態宣言により、活動自粛

7) 現状報告

作品の所在を探索するにあたり、当初対象となっていなかった作品が発見されたり、逆に対象候補作品が見つからなかったり、半年程度で考えていた検索は1年以上を要した。

4回にわたる緊急事態宣言の発令により、その都度 APCN 沖縄の活動は約半年ほど自粛を余儀なくされたことで、編集部会の開催が幾度も延期され、また作品の著作権者に直接面会することができない状況も続き（高齢の方が多くリモート面会などが出来ない）、新型コロナウイルス感染拡大により作業が予定より大幅に遅れており、出版が期日に間に合わない状況であるが、着実に作品は集まりつつあり、記録作業は進んでいる。

自粛期間が明けた際には、権利者に連絡、面会し説明するなどこまめに連絡を取り、また編集部会は文書で確認可能なものは文書を編集委員に郵送するなどを行い、2021年中の出版を目指したい。

8) 掲載内容

B5サイズ 報告書スタイルの冊子 約100ページ程度 250冊予定

目次・凡例		執筆終了
巻頭のごあいさつ	宜保栄治郎	執筆終了
創作組踊のあゆみ	大野順美	執筆終了
修羅の門	阿波連本啓	記録完了
犬太郎と王女	上間朝久	記録完了
母天女	上間朝久	記録完了
伊江島の遺念	玉城盛義	記録完了

中城落城	玉城盛義	記録完了
百登踏揚勝連くだり	玉城盛義	記録完了
普天間権現	玉城盛義（玉城流玉扇会）	記録完了
恩愛綾蝶感応の巻	仲井眞元楷	記録完了
(参考)人盗人	眞境名由康	台本入手
著作権などの考え方		執筆終了
掲載作品一覧		許可権者に確認中
新作・創作組踊作品一覧		90%調査完了
編集後記		執筆中

以上、現状報告といたします。